

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。なお、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

家蓄^ニ一老狸奴^{リ(注1)}。将^ア誕^{ウマント}子^{ヲ(a)}矣。一

女童誤^{リテ}触^レ之^ニ而^{シテ}墮^ス。日夕鳴^{を(注2)}鳴^を然^{ぜんタリ}。

会^{たま}有^リ餽^{おくルニ}兩小狸奴^ヲ者^上。其始^メ蓋^シ漠^(注3)

然^{トシテ}不^ル相^ヒ能^{よクセ}也。老狸奴^{ナル}者、従^{ヒテ}而撫^{ぶシ}

之、ヲ徬徨焉、(注4) はうくわう えん躑躅焉、えん臥則擁之、スレバ行ケバ

則チ翊之、たすク舐其ナメテ舐而讓之、(注5) じようウ食。而小

狸奴者、ナル亦久而相忘也、シク稍即之、シテ

遂承其乳焉、(1) 二自是欣然、(注6) きんぜん以為良、ス

己之母、ナリト老狸奴者、ナル亦居然、(注7) トシテ以為ス

良_ニ己_ガ出_{ダスト}也_(b)。A
吁_{ああ}、亦_タ異_{ナル}哉_{かな}。

昔、漢_ノ明_(注8)德馬后_ニ無_シ子。顯_(注9)宗取_リ
二

他_ノ人_{じん}子_{シラ}、命_{ジテ}養_{ハシ}之_{メテ}。日_{ハク}、人_{ハク}子_{ハク}何_{ハク}必_{ハク}親_{ハク}
B

生_{ハク}。但_ダ恨_ム二愛_ム之_ム不_ル至_ラ耳_(c)。后_{ハク}遂_ニ尽_{クシテ}心_ヲ

撫_{ハク}育_シ、而_{シテ}章帝_モ亦_タ恩_(注10)性_{ハク}天_{ハク}至_{タリ}。母_{ハク}子_{ハク}

慈孝、始終無_二纖芥^(注11)之間。狸奴之

事、適⁽²⁾有_レ契^{かなフ}焉^(d)。然^{しかラバ}則_チ^C世之為人親

与_レ子、而有_二不慈不孝者_一、豈独愧_二

于古人。亦^タ愧^{はッル}此異類_一^(e)已。

(程敏政『篁墩文集』による)

(注)

1 狸奴——猫。

2 嗚嗚然——嘆き悲しんで鳴くさま。

3 漠然——無関心なさま。

4 徬徨焉、躑躅焉——うろつろしたり足踏みをしたりして、
落ち着かないさま。

5 翫——うぶ毛。

6 欣然——よろこぶさま。

7 居然——やすらかなさま。

8 明德馬后——後漢の第二代明帝(顯宗)の皇后。第三代章帝
の養母。

9 顯宗取_二他人子_一、命養_レ之——顯宗が他の妃きさうけの子を引き取つて、明德馬后に養育を託したことをいう。

10 恩性天至——親に対する愛情が、自然にそなわっていること。

11 無_二纖芥之間_一——わずかな隔たりさえないこと。

問1

39ページの傍線部(1)「承」・41ページの(2)「適」の意味として最も

適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つ

ずつ選べ。解答番号は

29

・

30

。

(1)

29

「承」

①

授けた

②

認識した

③

納得した

④

差し出した

⑤

受け入れた

(2)

30

「適」

└──────────────────┘

⑤ ④ ③ ② ①

かならず ほとんど ちょうど わずかに ゆくゆく

問2 38ページの二重傍線部(ア)「将」・39ページの(イ)「自」と同じ読み方

をするものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つ

ずつ選べ。解答番号は

31

・

32

。

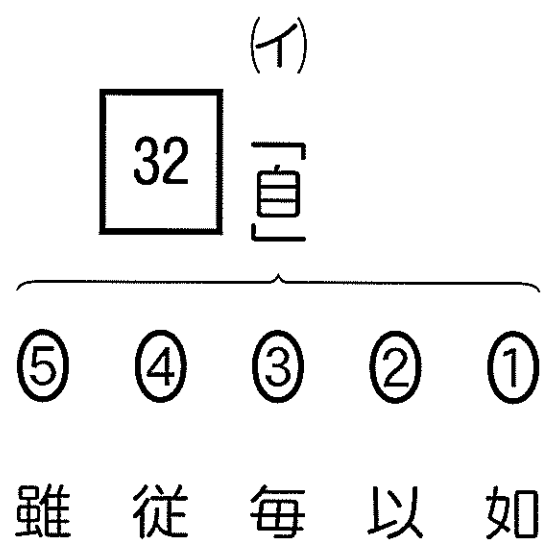
(ア)

31

「将」

⑤ ④ ③ ② ①

須 且 応 盍 当



雖 從 每 以 如

問3

38ページの波線部(a)「矣」・40ページの(b)「也」・(c)「耳」・41ページの(d)「焉」・(e)「已」の説明の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

33。

① (a)「矣」は「かな」と読み、詠嘆の意味を添え、(b)「也」は「なり」と読み、断定の意味を添える。

② (a)「矣」は「かな」と読み、感動の意味を添え、(e)「已」は「み」と読み、限定の意味を添える。

③ (b)「也」は「なり」と読み、伝聞の意味を添え、(c)「耳」は「のみ」と読み、限定の意味を添える。

④ (c)「耳」は「のみ」と読み、限定の意味を添え、(d)「焉」は文末の置き字で、断定の意味を添える。

⑤ (d)「焉」は文末の置き字で、意志の意味を添え、(e)「已」は「のみ」と読み、限定の意味を添える。

問4 40ページの傍線部A「吁、亦異哉」とあるが、筆者がそのよう

に述べる理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選べ。解答番号は

34。

① 子猫たちと出会った時は「嗚嗚然」としていた老猫が、「欣然」と子猫たちと戯れる姿を見せるようになったため。

② 互いに「漠然」として親子であることを忘れていた猫たちが、最後には「居然」と本来の関係をとりもどしたため。

③ 老猫と出会った初めは「漠然」としていた子猫たちが、ついには「欣然」と老猫のことを慕うようになったため。

④ 子猫たちが「居然」として老猫になつき、老猫も「嗚嗚然」たる深い悲しみを乗り越えることができたため。

⑤ 子猫たちが「欣然」と戯れる一方で、老猫は「居然」たるさまを装いながらも深い悲しみを隠しきれずにいるため。

問5

40ページの傍線部B「人子何必親生」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35

。

① 子というものは、いつまでも親元にいるべきではない。

② 子というものは、必ずしも親の思い通りにはならない。

③ 子というものは、どのようにして育ててゆけば良いのか。

④ 子というものは、自分で産んだかどうかが大事なのではない。

⑤ 子というものは、いつまでも親の気を引きたいものだ。

問6 41ページの傍線部C「世之為人親与子、而有不慈不

孝者、豈独愧于古人」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

36。

① 世の人親じんしんと子との為にして、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧はづかしめんや

② 世の人親の子に与ふと為すも、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人に愧づるのみならんや

③ 世の人親の子に与ふるが為に、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧づかしめんや

④ 世の人親と子との為にするも、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧づかしめんや

⑤ 世の人親と子と為りて、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人に愧づるのみならんや

問7

この文章全体から読み取れる筆者の考えの説明として最も適当なもの、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

37

① 猫の親子でも家族の危機を乗り越え、たくましく生きていく。悲嘆のあまり人間本来の姿を見失った親子も、古人が言うように互いの愛情によって立ち直ると信じたものだ。

② 血のつながらない猫同士でさえ実の親子ほどに強く結ばれることがある。人でありながら互いに愛情を抱きあえない親子がいることは、古人はおろか猫の例にも及ばないほど嘆か
わしいものだ。

③ 子猫たちとの心あたたまる交流によっても、ついに老猫の悲しみは癒やされることはなかった。我が子を思う親の愛情は、古人が示したように何にもたえようがないほど深いものだ。

④ 老猫は子猫たちを憐れ^{あわ}んで献身的に養育し、子猫たちも心から老猫になつく。その一方で、古人のように素直になれず、愛情がすれ違う昨今の親子を見ると、誠にいたたまれなくなるものだ。

⑤ もらわれてきた子猫でさえ老猫に対して孝心を抱く。これに反して、成長しても肉親の愛情に恩義を感じない子がいることは、古人に顔向けできないほど恥ずかしいものだ。